



## メディア リソースの概要

- [メディア リソースについて, 1 ページ](#)
- [メディア リソースの設定, 1 ページ](#)

## メディア リソースについて

Cisco Unified Communications Manager の機能では、メディア リソースが使用されます。メディア リソースにより、アナウンサー、自動音声応答（IVR）、トランスコーディング、会議、保留音、メディア ターミネーションなどのサービスが提供されます。

## メディア リソースの設定

次のタスク フローを実行すると、システムのメディア リソースを設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">メディア リソース グループのタスク フロー</a>	この章の手順を使用して、メディア サーバの論理グループを定義します。
ステップ 2	<a href="#">トラステッドリレー ポイントのタスク フロー</a>	トラステッドリレー ポイントをメディア ストリームに挿入し、そのストリームのコントロールポイントとして機能させます。このデバイスを使用すると、そのストリームにさらに処理を加えることができます。また、ストリームが確実に特定のパスを辿るようにする手段として使用することもできます。
ステップ 3	<a href="#">アナウンサー設定タスク フロー</a>	Cisco Unified Communications Manager が事前に録音されたアナウンス（.wav ファイル）を再生したり、Cisco Unified

	コマンドまたはアクション	目的
		IP Phone やシスコの Multilevel Precedence and Preemption 対応として設定されているゲートウェイなどのデバイスにトーンを送信したりできるように、アナウンサーを設定します。
ステップ 4	自動音声応答の設定のタスクフロー	自動音声応答 (IVR) デバイスを使用して、Cisco Unified IP Phone やゲートウェイなどのデバイスに対して事前に録音された機能アナウンスメント (.wav ファイル) を再生できます。これらのアナウンスは、開催中の会議などの、IVR アナウンスが必要な機能を使用するデバイスで再生されます。
ステップ 5	保留ビデオ設定のタスクフロー	ビデオコンタクトセンターにコールを発信する顧客が、コンタクトセンターでのエージェントとの最初のコンサルティングの後に、特定のビデオを視聴できるように、ビデオコンタクトセンターに Video On Hold を設定します。
ステップ 6	アナウンスの設定タスクフロー	この章の手順を使用して、事前定義済みのアナウンスを使用するか、またはカスタムアナウンスをアップロードできます。
ステップ 7	会議ブリッジの設定タスクフロー	アドホック/ミーティングビデオ会議およびビデオ会議を可能にするソフトウェアとハードウェアのアプリケーションを設定します。
ステップ 8	DSCP の設定構成のタスクフロー	フレキシブル DSCP マーキングおよびビデオプロモーションを使用して、コールアドミッション制御 (CAC) と Quality of Service (QoS) の処理でどのアプリケーションを最も優先するかを指定するポリシーを設定できます。
ステップ 9	トランスコーダと MTP 設定のタスクフロー	1つのコーデックからの入力ストリームを、別のコーデックを使用する出力ストリームに変換するために、トランスコーダを設定します。